PRESS RELEASE

国立大学法人 徳島大学

徳島大学歯学部・大学院口腔科学研究科

徳島大学病院 Tokushima University Hospital

令和 8 年 11 月 24 日

治療しても歯が痛い
～その痛み、歯が原因ではないかもしれません～

＜報道概要＞

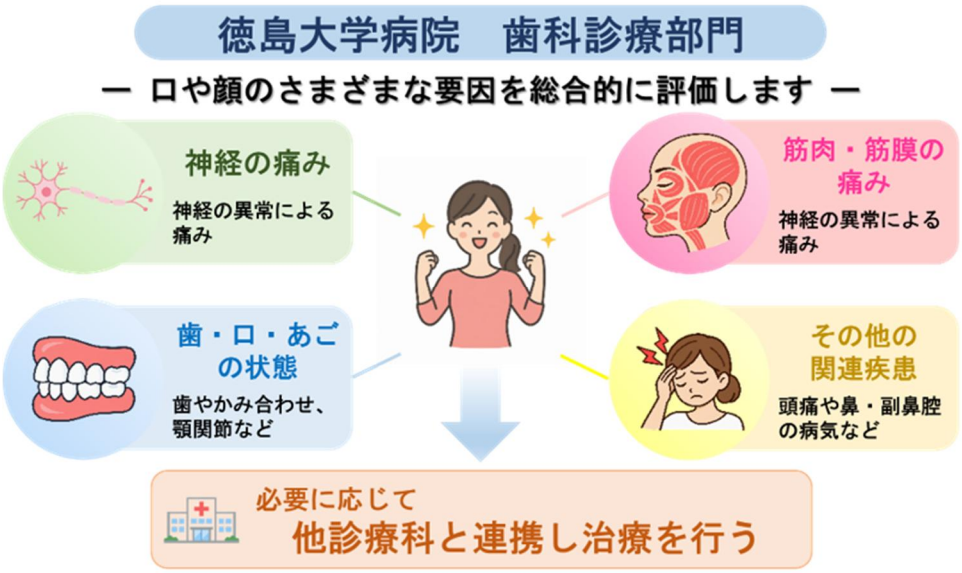
歯の治療をしても痛みが続く場合、その原因は歯ではないことがあります。これは「非歯原性歯痛（ひしげんせいしつう）」と呼ばれ、神経や筋肉のトラブル、時には別の病気が関係していることもあります。徳島大学病院歯科診療部門では、詳しい問診や診察を通じて痛みの原因を見極め、薬物療法や生活習慣の改善指導、必要に応じて他診療科と連携した治療を行い、原因不明の歯の痛みに悩む患者さんの症状改善を目指します。

非歯原性歯痛とは、むし歯や歯周病などとは異なり、歯そのものに原因がないにもかかわらず、歯に痛みを感じる状態のことです。顎や顔の筋肉、神経の異常、頭痛など、さまざまな原因によって引き起こされます。そのため、歯の治療を繰り返しても痛みが改善しないことがあり、原因に応じた適切な診断と治療が重要です。

徳島大学病院歯科診療部門では、専門の歯科医師が詳しい問診や診察を通じて痛みの原因を見極め、必要に応じて他診療科と連携しながら、患者さん一人ひとりの症状に合わせて、以下のような様々な診療を行っています。

- ◆ 筋肉が原因となる歯の痛みに対して、顎や顔の筋肉を触って痛みの状態を調べ、筋肉の緊張を和らげるための生活指導やセルフケアの指導などを行います。
- ◆ 神経の異常によって生じる歯の痛みに対して、痛みの特徴や感覚の異常を詳しく調べ、必要に応じて薬物療法などを行い、痛みの軽減を目指します。
- ◆ 頭痛や鼻・副鼻腔の病気などに関連する歯の痛みに対して、症状や検査結果から原因を検討し、必要に応じて他診療科と連携して対応します。
- ◆ 歯の治療後も続く原因不明の痛みに対して、これまでの治療経過や痛みの性質を詳しく確認し、歯以外に原因がないかを総合的に評価します。
- ◆ 歯や顎の状態を含めた詳しい診察を行い、エックス線検査なども活用して、むし歯や歯周病などの歯科疾患による痛みと非歯原性歯痛を慎重に見分けます。
- ◆ 痛みが長く続き、日常生活に支障をきたしている患者さんに対して、薬物療法や生活習慣の改善指導、必要に応じた他診療科との連携を通じて、痛みの軽減と生活の質の向上を目指します。

770-8501
徳島市新蔵町 2 丁目 24 番地
電話番号 088-656-7021
https://www.tokushima-u.ac.jp /



お問い合わせ先
徳島大学病院かみあわせ補綴科
担当者　外来医長／助教　生田目　大介
電話番号　088-633-7350
メールアドレス　c000030613[ｱｯﾄ]tokushima-u.ac.jp
※メールを送信される場合には、[ｱｯﾄ]を@に置き換えてください。